

日点委通信

No. 3

1987年11月1日発行

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1987年8月28日～30日の3日間、東京都新宿区の戸山サンライズ（全国身体障害者総合福祉センター）において、第22回総会を開催し、次の事項を協議した。出席委員は18名、事務局員5名、オブザーバーは16名であった。

1. 点字表記法の検討

日本点字委員会が現行の『改訂日本点字表記法』を発刊してから、既に8年近い歳月が経過している。この間、点字を常用する視覚障害者や点訳奉仕者などから、この『改訂日本点字表記法』の解説が不十分な点等について、多数の意見や要望が寄せられている。また、点字の表記法と密接な関係にある、日本語の仮名遣いの基準が、新たに「改定現代仮名遣い」として昨年告示された。そうした状況を踏まえて、日本点字委員会では、点字表記法をより系統的でより使いやすい内容に整理し直すべく検討を重ねてきている。今回は、第21回総会以後、東北・関東・東海・北陸・関西の各地域で検討してきた成果を基に、次のような事項について協議した。

①現行28字以外の特殊音表記について ②数字の位を仮名書きにする場合の規則性について ③ローマ数字における外字符省略の可否について ④つなぎ符の使用基準について ⑤和語を含む複合名詞の切れ続きについて ⑥段落挿入符・小見出し符・詩行符等の記号とその用法について ⑦点訳におけるルビの扱いの基準について

なお、これらの事項について協議内容がまとめ次第、『日本の点字』等で公表し関係者をはじめ、広く多くの方々の意見を聴取する予定である。

2. 委員の交替について

学識経験委員で本会副会長であった海藤弘委員は、この3月末日に山形県立山形盲

学校長を退職されたため、後任として北海道札幌盲学校長の及川巳佐男氏（全日本盲学校教育研究会会長）が残りの期間を委員として担当することになった。なお、及川委員は、海藤委員から引き継いで本会の副会長となった。

3. 日本の点字制定百周年記念事業について

1990年は、我が国における点字制定百周年に当たるので、日本点字委員会では、記念事業検討委員会を発足させ、記念事業内容の検討を開始することにした。検討委員会は、阿佐博、木塚泰弘、小林一弘、下沢仁、西尾正二、宮田信直の6委員で構成し、委員長には、阿佐博副会長が当たることになった。

刊行図書を紹介

『改訂日本点字表記法』（1980年2月5日発行）

本書は、日本語の点字表記の原典である。点字表記の統一と体系化をめざす日本点字委員会が、①墨字との対応関係を明らかにする、②表記法内部の矛盾を解消し、表記法の理論的根拠を明確にする、③符号の多様化に対応する、という3点から『日本点字表記法（現代語篇）』に検討を加えて改訂し、日本の点字制定90周年を記念して刊行されたものである。

内容としては、第1章総論（盲人用文字としての点字、日本点字表記法の変遷等）、第2章点字の記号（点字の構成とブライユの点字配列表、点字かな・数字・英文字・文章記号等の構成）、第3章語の書き表わし方（現代語のかなづかい、外来語と外国語のかなづかい、数および数字を含む語の書き表わし方、アルファベットと外国語の書き表わし方、古語や方言のかなづかい）、第4章語の関係と分かち書き（文の単位と分かち書き、自立語内部・固有名詞内部の切れ続き）、第5章文の構成と文章記号の用法（文や語句の区切りと句点・疑問符・感嘆符・読点・中点の用法、語句や文の関係・引用・強調・説明・省略などとカギ類・カッコ類・指示符類・点線・棒線等各種記号の用法、点字かな体系における外国語・数学・理科記号体系の位置づけ）、第6章書き方の形式（行変えと行移し、詩や脚本などの書き方、表や略記の仕方等）を含むものである。点字に関心を持つすべての人が必携すべき基本図書である。

『点字数学記号解説』（1981年7月7日発行）

現行の点字数学記号体系の基礎は、1956年に日本点字研究会によってまとめられた『点字数学記号』である。1970年に高等学校の学習指導要領が改定されて集合・行列などの新しい内容が導入されたことと、その頃から大学で数学を学ぶ盲学生が増えてきたことなどから、点字数学記号の修正・追加・統一の必要性が高まった。そうした状況を踏まえて、日本点字委員会は点字数学記号専門委員会を構成し、その検討結果に基づいて作成されたのが本書である。本書は、第一部と第二部との二部構成になっている。第一部は、小数・分数・四則記号・等号・不等号・カッコ・諸単位の書き方など算数の記号についての解説であり、第二部は、更に進んだ点字数学記号体系についての解説になっている。理数系専門書の点訳には必須の解説書である。

『点字理科記号解説』（1983年6月10日発行）

我が国の点字理科記号がひとまず集大成されたのは1954年のことである。その後、全国の盲学校高等部に普通科が設置されるようになり、1970年に改定された高等学校学習指導要領に基づいて教科書を点訳するに当たり、記号類の不足や表記法の確立が急務となった。そこで、日本点字委員会は点字理化学記号専門委員会を構成し、その検討結果に基づいて作成されたのが本書である。本書は、第一部で理科で用いる文字・数字・単位・数式について概括的に解説し、第二部で化学の記号、第三部で生物・地学・物理の記号の詳しい解説をしている。なお、付録として、主な単位、主な有機官能基の一覧と主な無機化合物の構造と示性式が点字の字形で掲載されている。

『日本の点字』第14号（1987年6月30日発行）

本書は、この度新しく告示された「改定現代仮名遣い」のうち、付表を除いた前文と本文のすべてを掲載したほか、日盲社協点字図書館部会が実施した「点字表記に関する調査報告」、日本盲人福祉研究会発行の『新時代』『視覚障害』に掲載された点字関係の文献目録などを主な内容として編集されたものである。

『日本の点字』臨時休刊のお知らせ

昭和62年度は、諸般の事情により『日本の点字』を臨時に休刊いたします。

頒 布 図 書 案 内

日本点字委員会では、現在次の図書を販売しています。

	(点 字 版)	(墨 字 版)
1	『改訂日本点字表記法』 1200 円 (送料無料)	600円 (送料 200 円)
2	『点字数学記号解説』 1200 円 (送料無料)	600円 (送料 200 円)
	『点字数学記号解説別冊』 3800 円 (送料無料)	
3	『点字理科記号解説』 1200 円 (送料無料)	600円 (送料 200 円)
4	『日本の点字 第9号』 300 円 (送料無料)	300円 (送料 170 円)
	(コンピューター用点字 動詞「する」の切れ続き その他)	
5	『日本の点字 第10号』 400 円 (送料無料)	(品 切)
	(国語審議会への意見書 数を含む語の表記 その他)	
6	『日本の点字 第11号』 400 円 (送料無料)	400円 (送料 200 円)
	(現代かなづかいの問題点とその展望 点字関係文献目録 その他)	
7	『日本の点字 第12号』 400 円 (送料無料)	400円 (送料 200 円)
	(外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きについて その他)	
8	『日本の点字 第13号』 500 円 (送料無料)	500円 (送料 200 円)
	(複合語の構成と分かち書きの問題 国語審議会への要望書 その他)	
9	『日本の点字 第14号』 500 円 (送料無料)	500円 (送料 200 円)
	(「改定現代仮名遣い」原文 点字表記に関する調査報告 その他)	

点字版の『点字数学記号解説別冊』はサーモフォーム印刷によるもので、数式等の形式をも含めた墨字数学記号と点字数学記号との対照表が主な内容です。墨字版の『点字数学記号解説』にはこの別冊分の内容も含まれています。

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

御注文は、いずれも下記日本点字委員会事務局へお願いいたします。

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 電話 東京03(209)0241番
 日本点字図書館内 日本点字委員会事務局 (郵便振替 東京0-42820)